

平成29年度第1回

かわさき市民アンケート概要版

調査の概要

調査設計等	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査対象 川崎市在住の満18才以上の男女個人 ◆調査方法 インターネット調査 ◆標本抽出 インターネットモニター登録者から抽出 	<ul style="list-style-type: none"> ◆調査期間 平成29年9月1日(金)～9月15日(金) ◆有効回収数 1,500標本
調査項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 多様な世代が快適に暮らせる住まいに向けた取り組みについて 2 都市景観について 3 市民自治の実態等について 	

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 男性	766	51.1
2 女性	734	48.9
(無回答)	-	-
合計	1,500	100.0

2 居住区別

	基数 (人)	構成比 (%)
1 川崎区	248	16.5
2 幸区	166	11.1
3 中原区	254	16.9
4 高津区	231	15.4
5 宮前区	213	14.2
6 多摩区	215	14.3
7 麻生区	173	11.5
(無回答)	-	-
合計	1,500	100.0

3 性／年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数 (人)	構成比 (%)						
1 18～29歳	217	14.5	91	11.9	126	17.2	-	-
2 30～39歳	320	21.3	178	23.2	142	19.3	-	-
3 40～49歳	366	24.4	198	25.8	168	22.9	-	-
4 50～59歳	259	17.3	127	16.6	132	18.0	-	-
5 60～69歳	229	15.3	103	13.4	126	17.2	-	-
6 70歳以上	109	7.3	69	9.0	40	5.4	-	-
(無回答)	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,500	100.0	766	100.0	734	100.0	-	-

1

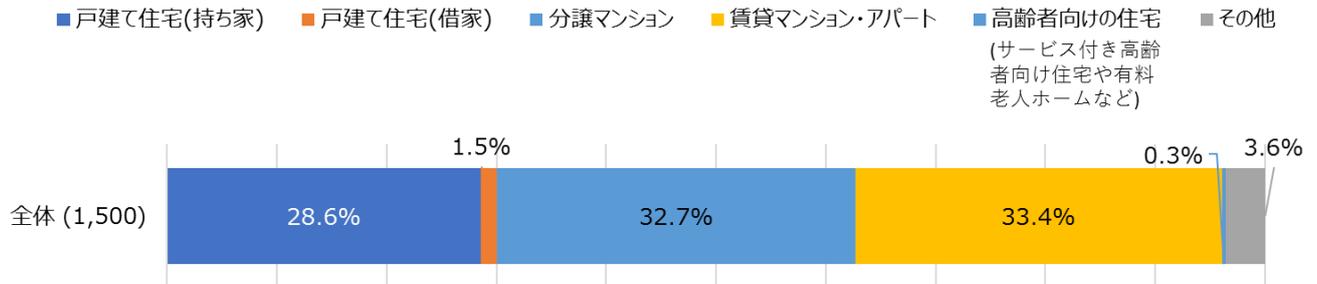
多様な世代が快適に暮らせる住まいに向けた取り組みについて

1 現在の住まい

現在のお住まいは、「賃貸マンション・アパート」(33.4%)が最も高く、次いで「分譲マンション」(32.7%)、「戸建て住宅(持ち家)」(28.6%)の順であった。

■ 現在のお住まい

図 1



2 現在の住まいから住み替えたい住宅

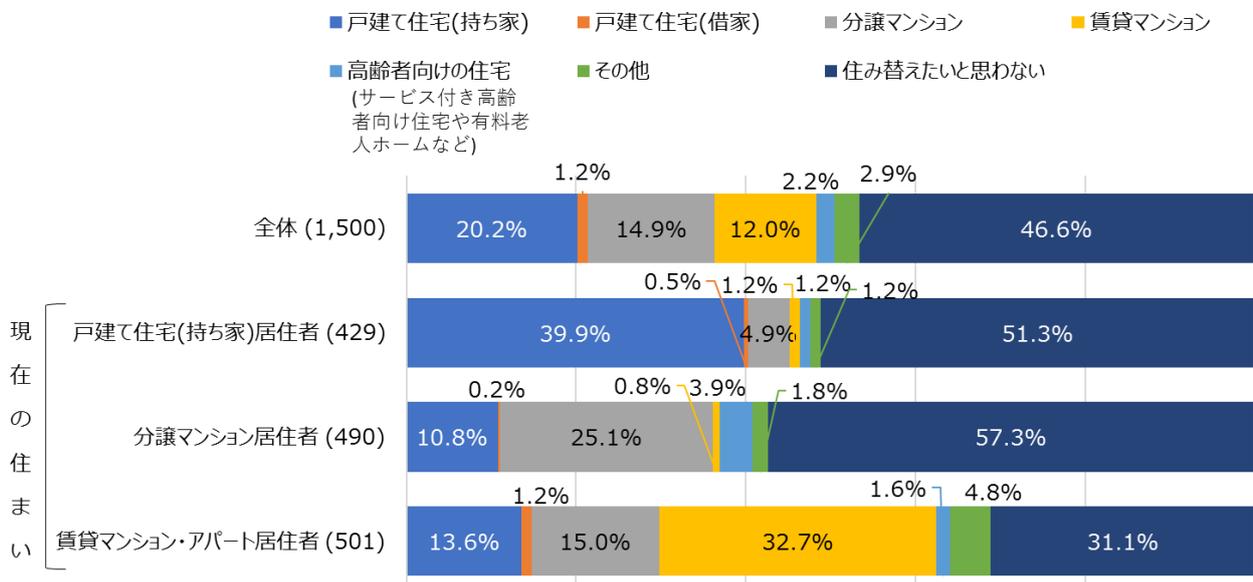
現在のお住まいから住み替えたい住宅を聞いたところ、全体(n=1,500)では「住み替えたいとは思わない」が 46.6%であったが、「分譲マンション」にお住まいの方(n=490)では 57.3%、「戸建て住宅(持ち家)」にお住まいの方(n=429)では 51.3%が「住み替えたいとは思わない」と回答した。

また、「戸建て住宅(持ち家)」にお住まいの方(n=429)の 39.9%が「戸建て住宅(持ち家)」に、「分譲マンション」にお住まいの方(n=490)の 25.1%が「分譲マンション」に住み替えたいと回答した。

一方、「賃貸マンション・アパート」にお住まいの方(n=501)では、「賃貸マンション」に住み替えたい(32.7%)と「住み替えたいとは思わない」(31.1%)が同程度の割合であった。

■ 住み替えたい住宅

図 2



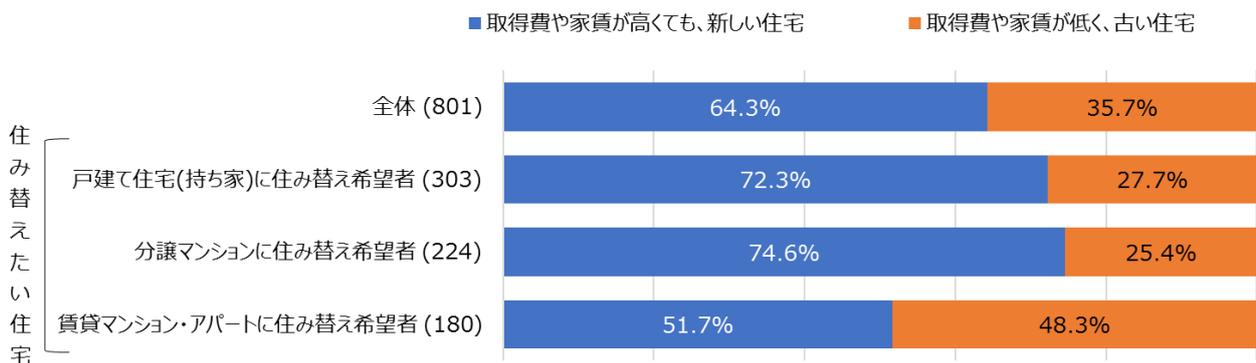
3 住み替えたいと思う住宅

現在のお住まいから住み替えたいと回答した方(n=801)に、住み替えたいと思う住宅のタイプを聞いたところ、全体では「取得費や家賃が高くても、新しい住宅」が64.3%であり、この割合は「戸建て住宅(持ち家)に住み替え希望」の方(n=303)や「分譲マンションに住み替え希望」の方(n=224)では7割を超えた。

一方、「賃貸マンション・アパートに住み替え希望」の方(n=180)では「取得費や家賃が高くても、新しい住宅」(51.7%)と「取得費や家賃が低く、古い住宅」(48.3%)とが同程度であった。

■ 住み替えたいと思う住宅のタイプ

図3



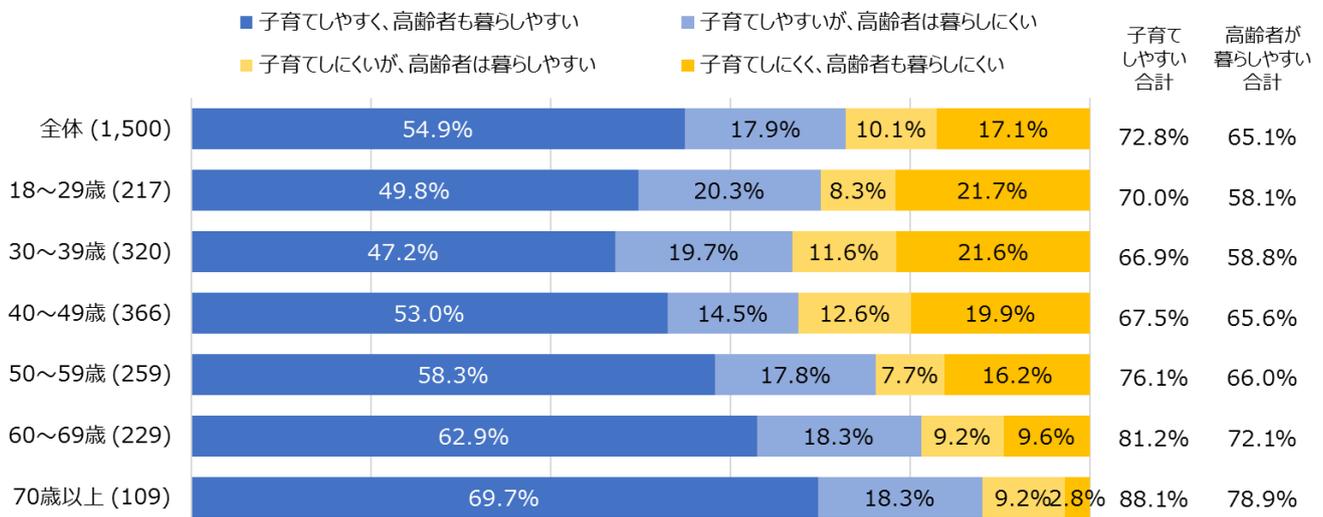
4 現在の生活環境に対する評価

現在の生活環境について、全体(n=1,500)の54.9%が「子育てしやすく、高齢者も暮らしやすい」と評価した。これに「子育てしやすいが、高齢者は暮らしにくい」(17.9%)を加えた「子育てしやすい」は72.8%、「子育てしにくいが、高齢者は暮らしやすい」(10.1%)を加えた「高齢者が暮らしやすい」は65.1%であった。

年代別では、「子育てしやすい」との回答は30代・40代で7割弱と他の年代に比べて低かった。一方、「高齢者が暮らしやすい」は年代が高くなるほど、その割合も高くなり、60歳以上では7割を超えた。

■ 現在の生活環境に対する評価

図4



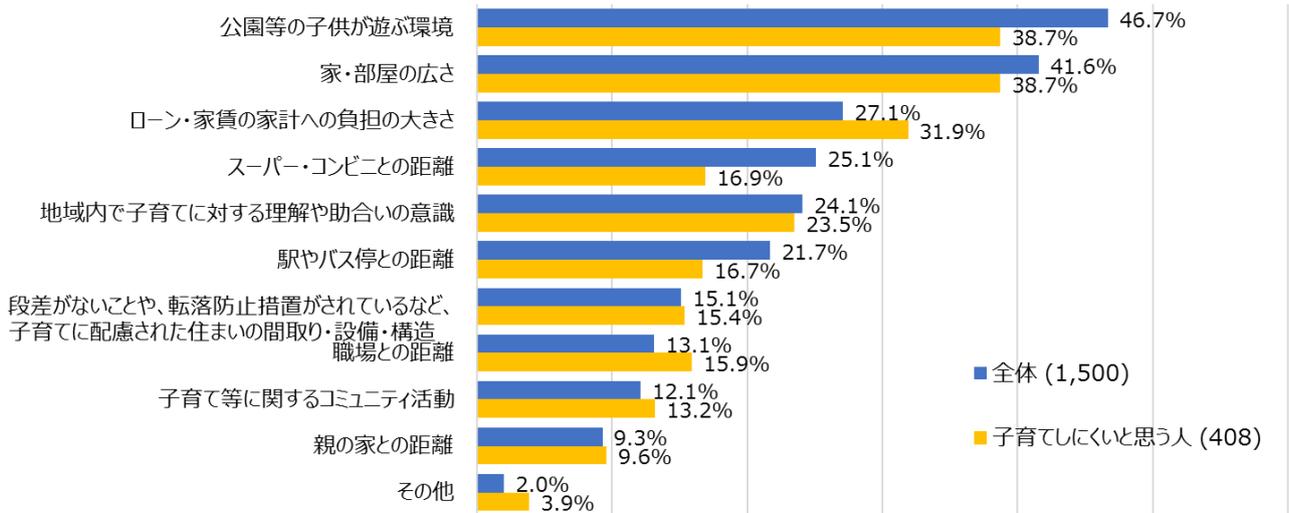
5 子育てしやすい住まいを考えるうえで、重要だと思うこと

全体(n=1,500)では「公園等の子供が遊ぶ環境」(46.7%)が最も多く、次いで「家・部屋の広さ」(41.6%)、「ローン・家賃の家計への負担の大きさ」(27.1%)、「スーパー・コンビニとの距離」(25.1%)の順であった。

現在の生活環境について「子育てしにくい」と回答した方(n=408)では上位3項目の順番は全体と同様であったが、4番目は「地域内で子育てに対する理解や助け合いの意識」(23.5%)であった。

■ 子育てしやすい住まいを考えるうえで、重要だと思うこと (3つまでの複数回答)

図5



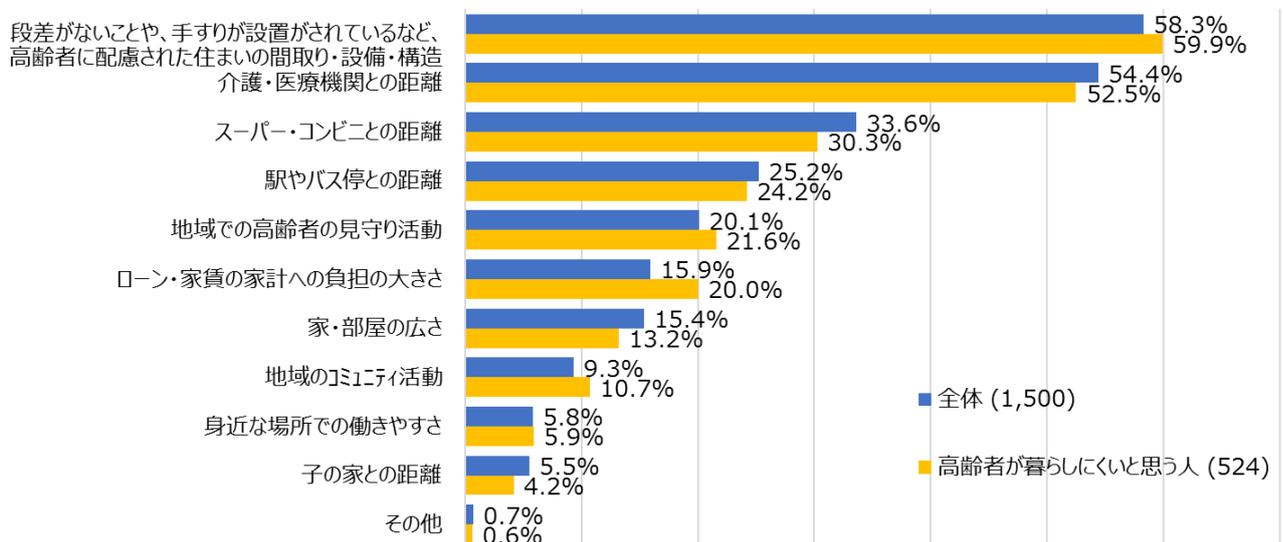
6 高齢者の暮らしやすい住まいを考えるうえで、重要だと思うこと

全体(n=1,500)では「段差がないことや、手すりが設置されているなど、高齢者に配慮された住まいの間取り・設備・構造」(58.3%)と「介護・医療機関との距離」(54.4%)が最も多かった。

現在の生活環境について「高齢者が暮らしにくい」と回答した方(n=524)でも同様の傾向であった。

■ 高齢者の暮らしやすい住まいを考えるうえで、重要だと思うこと (3つまでの複数回答)

図6



7 親もしくは子世帯との距離

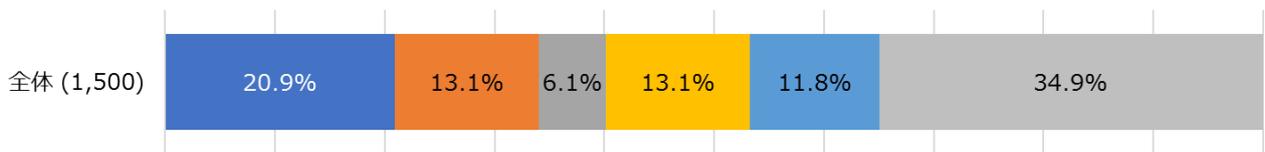
現在のお住まいと親もしくは子世帯のお住まいとの距離について、全体(n=1,500)では「(自転車や車、交通機関での移動を含む)移動時間1時間以上」(34.9%)が多かった。

一方で、同居(20.9%)と「徒歩10分以内」(13.1%)と親子の住居が近接している割合も34%であった。

■ 現在の親もしくは子世帯との距離

図7

■同居 ■徒歩10分以内 ■徒歩20分以内 ■移動時間30分以内 ■移動時間1時間以内 ■移動時間1時間以上
 ※移動時間には、自転車や車、交通機関での移動を含む



8 親もしくは子世帯との理想の距離

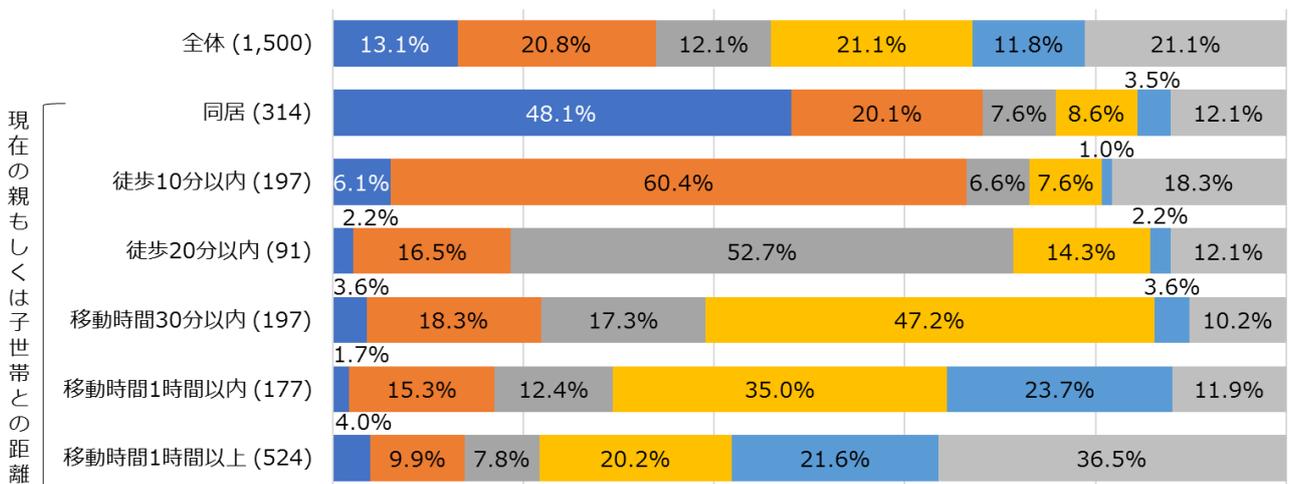
親もしくは子世帯のお住まいとの理想の距離について、全体(n=1,500)では「近くなくていい」(21.1%)、「(自転車や車、交通機関での移動を含む)移動時間30分以内」(21.1%)、「徒歩10分以内」(20.8%)が同程度と意見が分かれた。

また、現在と同じ距離を理想の距離とした方の割合は、現在「徒歩10分以内」の方(n=197)で最も高く60.4%、次いで、現在「徒歩20分以内」の方(n=91)での52.7%、現在「同居」している方(n=314)での48.1%、現在「移動時間30分以内」の方(n=197)での47.2%の順であった。

■ 親もしくは子世帯との理想の距離

図8

■同居 ■徒歩10分以内 ■徒歩20分以内 ■移動時間30分以内 ■移動時間1時間以内 ■近くなくていい
 ※移動時間には、自転車や車、交通機関での移動を含む



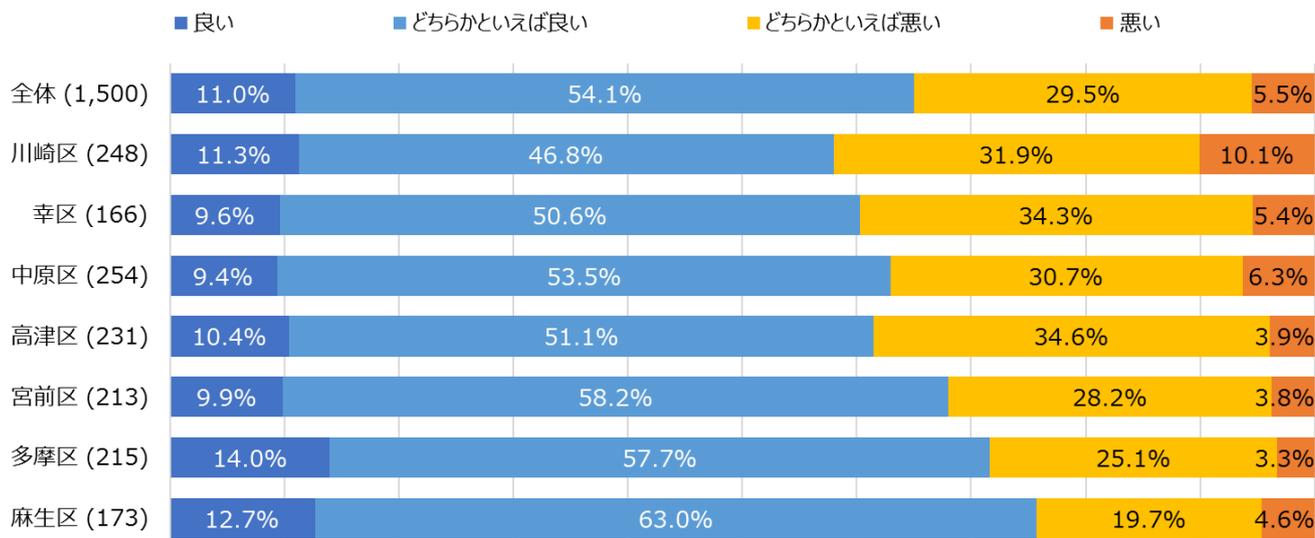
2 都市景観について

9 川崎市全体の景観

全体(n=1,500)では「良い」(11.0%)、「どちらかといえば良い」(54.1%)となり、約7割の方が川崎市全体の景観について「良い」と回答した。

■ 川崎市全体の景観

図9



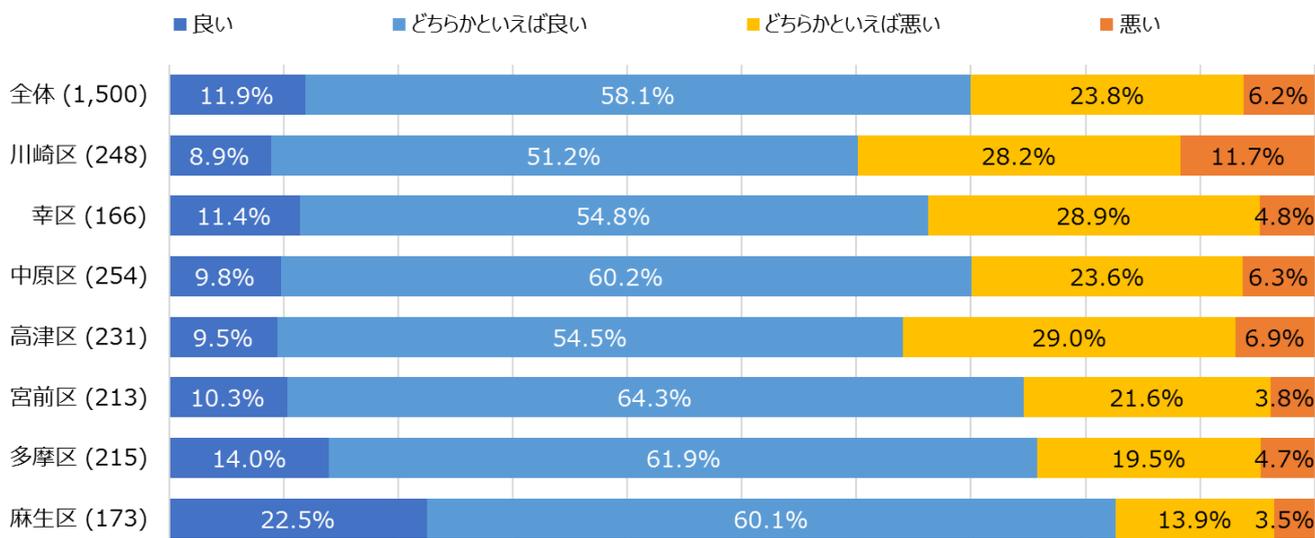
10 お住まいの地域周辺(町内会や自治会ぐらいの範囲)の景観

全体(n=1,500)では「良い」(11.9%)、「どちらかといえば良い」(58.1%)となり、川崎市全体の景観と同様の傾向であった。

区別では、麻生区(n=173)で「良い」(22.5%)と「どちらかといえば良い」(60.1%)の合計が82.7%と最も高かった。

■ お住まいの地域周辺(町内会や自治会ぐらいの範囲)の景観

図10



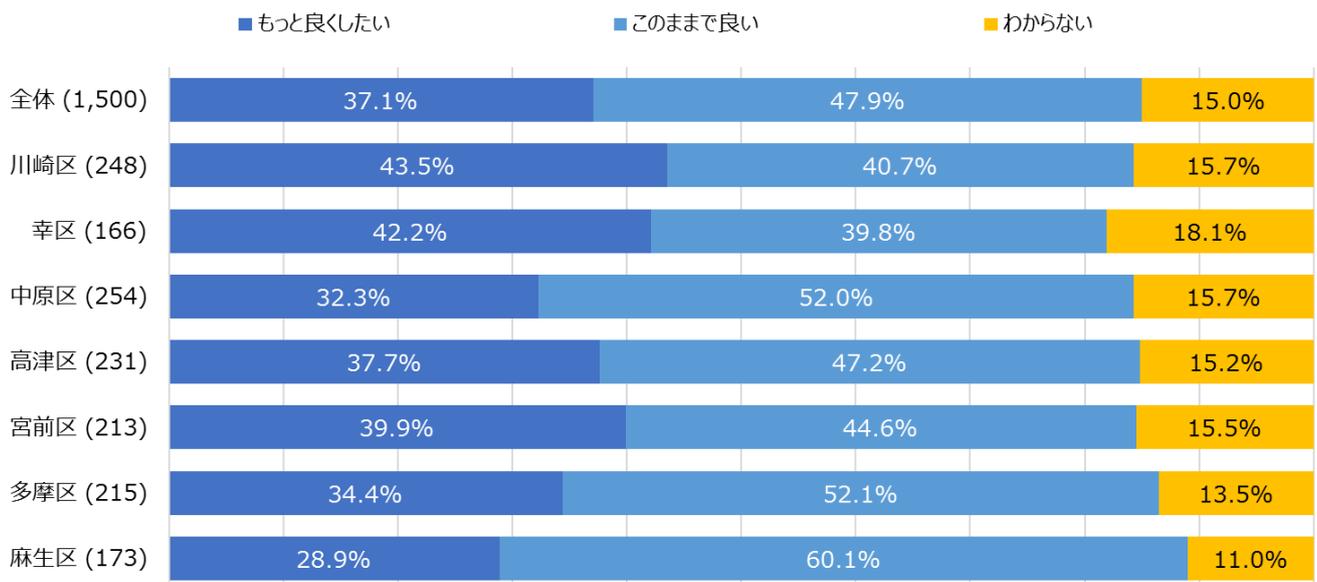
11 お住まいの地域の景観は、現在のままでよいと思うかどうか

お住まいの地域の景観は現在のままでよいと思うかどうか聞いたところ、全体(n=1,500)では「このままで良い」が47.9%、「もっと良くしたい」が37.1%であった。

区別では、麻生区(n=173)、多摩区(n=215)、「中原区」(n=254)では「このままで良い」が5~6割に上った一方で、「川崎区」(n=248)と「幸区」(n=166)では、「もっと良くしたい」が「このままで良い」を上回った。

■ お住まいの地域の景観は、現在のままでよいと思うかどうか

図 11



12 「屋外広告物」について感じる事

全体(n=1,500)では、「屋外広告物」の良い点としては「店舗の所在など情報が得られる」(32.1%)、「街に賑わいをもたらす」(20.3%)が多く、悪い点としては「形状・デザインが悪い」(20.1%)、「交通の妨げになる」(16.1%)が多かった。

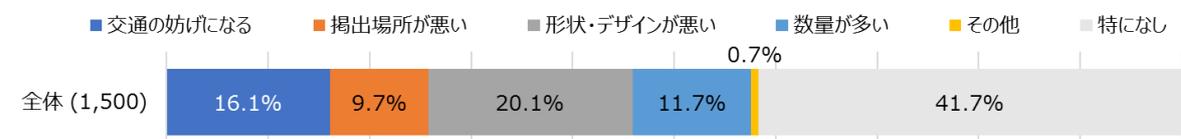
■ 「屋外広告物」について感じる事

図 12

【良い点】



【悪い点】



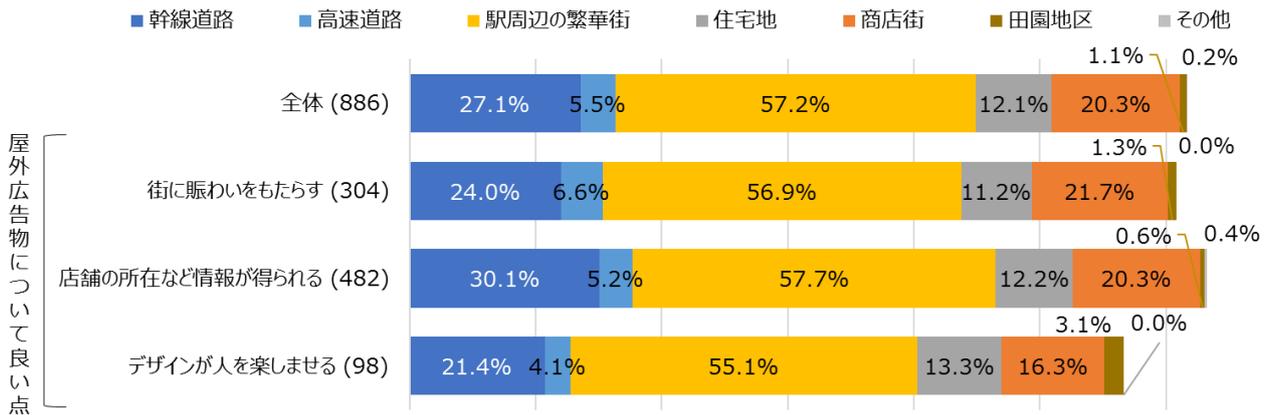
13 「良い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所

「屋外広告物」に対して「良い点」を感じると回答した人(n=886)に、「良い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所を聞いたところ、全体では「駅周辺の繁華街」(57.2%)が最も多く、次いで「幹線道路」(27.1%)、「商店街」(20.3%)の順であった。

「店舗の所在など情報が得られる」を良い点として挙げた方(n=482)では、他に比べ「幹線道路」の割合がやや高かった。

■ 「良い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所
(2つまでの複数回答)

図 13



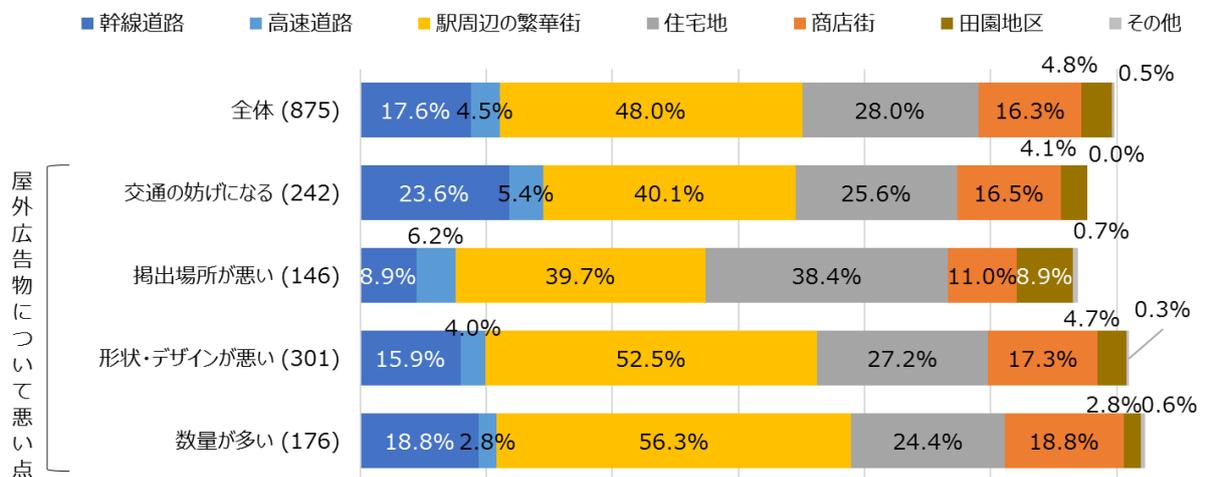
14 「悪い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所

「屋外広告物」に対して「悪い点」を感じると回答した人(n=875)に、「悪い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所を聞いたところ、全体では「駅周辺の繁華街」(48.0%)が最も多く、次いで「住宅地」(28.0%)、「幹線道路」(17.6%)の順であった。

「掲出場所が悪い」を悪い点として挙げた方(n=146)では、他に比べ「住宅地」の割合がやや高かった。

■ 「悪い点」を感じる「屋外広告物」を目にする場所
(2つまでの複数回答)

図 14

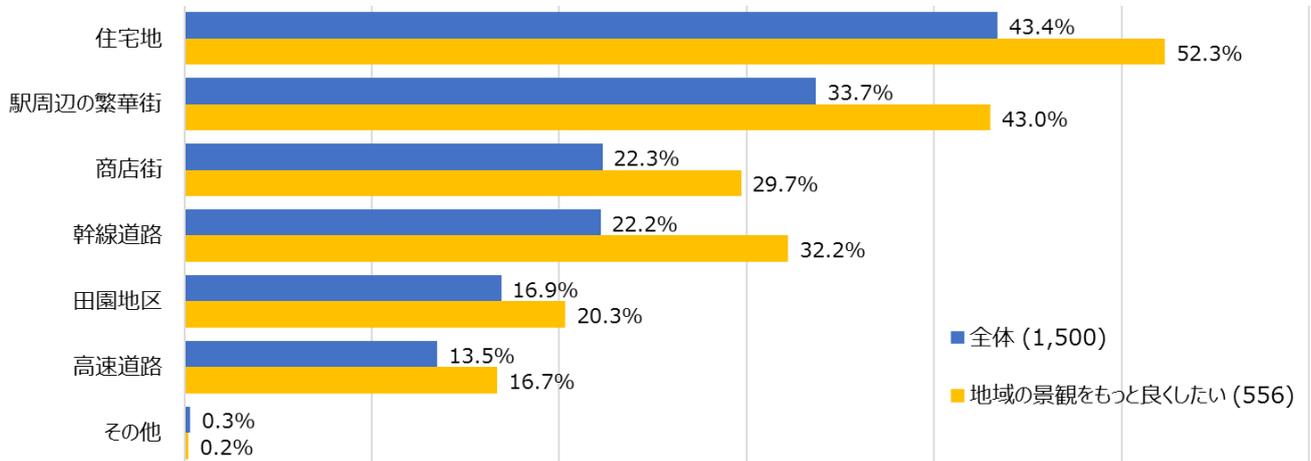


15 「屋外広告物」についての基準(制限)を定める必要があると思う場所

魅力ある景観形成のために「屋外広告物」についての基準(制限)を定める必要がある場所として一番多かったのは「住宅地」であり、全体(n=1,500)では43.4%、「地域の景観をもっと良くしたい」と思う方(n=556)では52.3%であった。

■ 「屋外広告物」についての基準(制限)を定める必要があると思う場所
(複数回答)

図 15



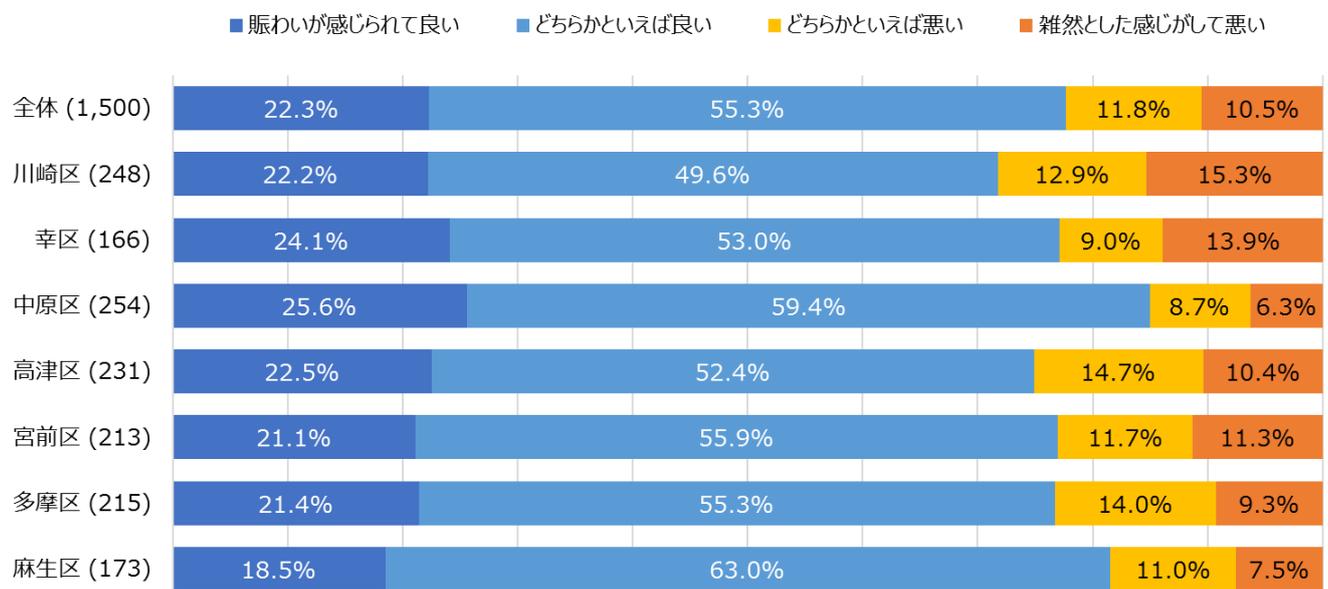
16 公共空間の利活用についての景観上の印象

道路等の公共空間において、カフェを設置したり、イベントを開催したりするような「公共空間の利活用」について、全体(n=1,500)では「賑わいが感じられて良い」と「どちらかといえば良い」を合計して、77.7%が景観上の印象が「良い」と回答した。

区別では、中原区(n=254)で「良い」の回答(「賑わいが感じられて良い」と「どちらかといえば良い」の合計)の割合が85.0%で最も高く、次いで麻生区(n=173)で81.5%であった。

■ 公共空間の利活用についての景観上の印象

図 16



3 市民自治の実態等について

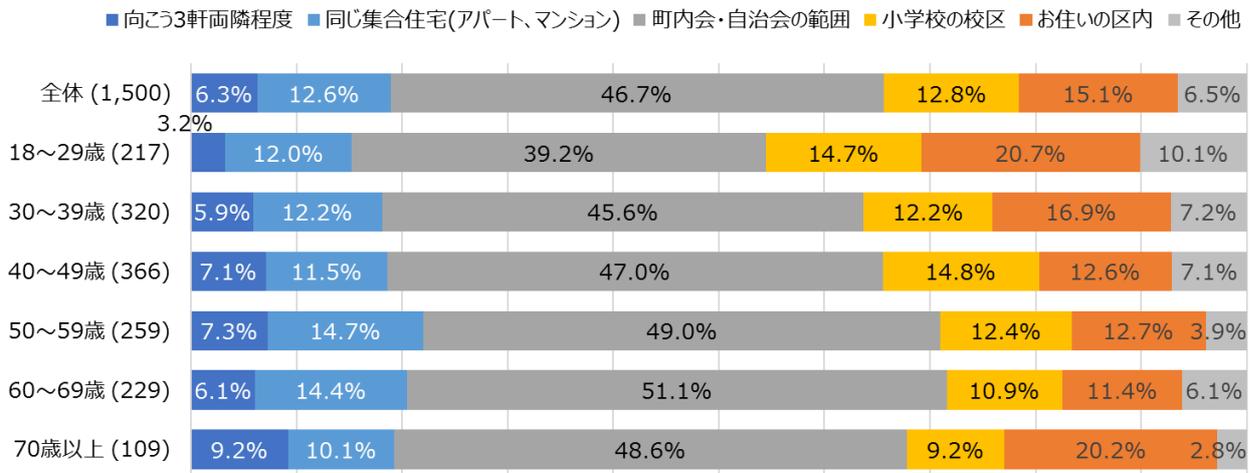
17 地域の範囲

自身にとっての「地域」の範囲を聞いたところ、全体(n=1,500)では半数近く(46.7%)の方が「町内会・自治会の範囲」と回答した。2番目に多かったのは「お住いの区内」で15.1%、以下、「小学校の校区」(12.8%)、「同じ集合住宅(アパート、マンション)」(12.6%)、「向こう3軒両隣程度」(6.3%)の順であった。

年代別では、18～29歳(n=217)で、他の年代に比べ、より広い範囲を回答する方の割合が高かった(「小学校の校区」と「お住いの区内」を合わせて35.5%)。

■ 地域の範囲

図17

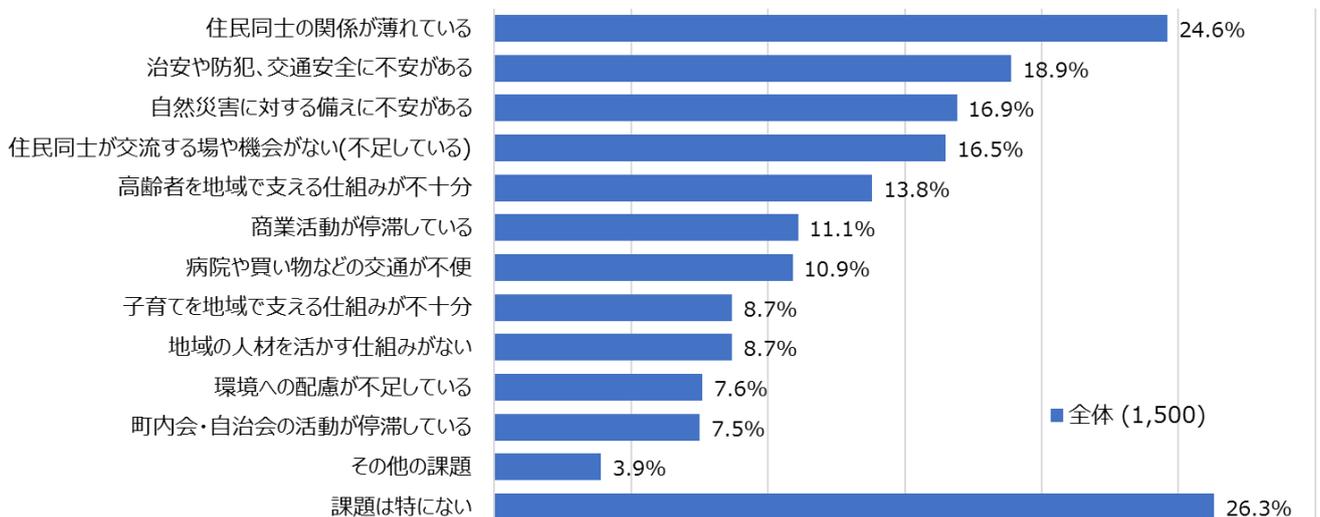


18 地域の課題

お住いの地域の課題について、全体(n=1,500)では「住民同士の関係が薄れている」(24.6%)が最も多く、次いで、「治安や防犯、交通安全に不安がある」(18.9%)、「自然災害に対する備えに不安がある」(16.9%)、「住民同士が交流する場や機会がない(不足している)」(16.5%)の順であった。

■ 地域の課題(3つまでの複数回答)

図18

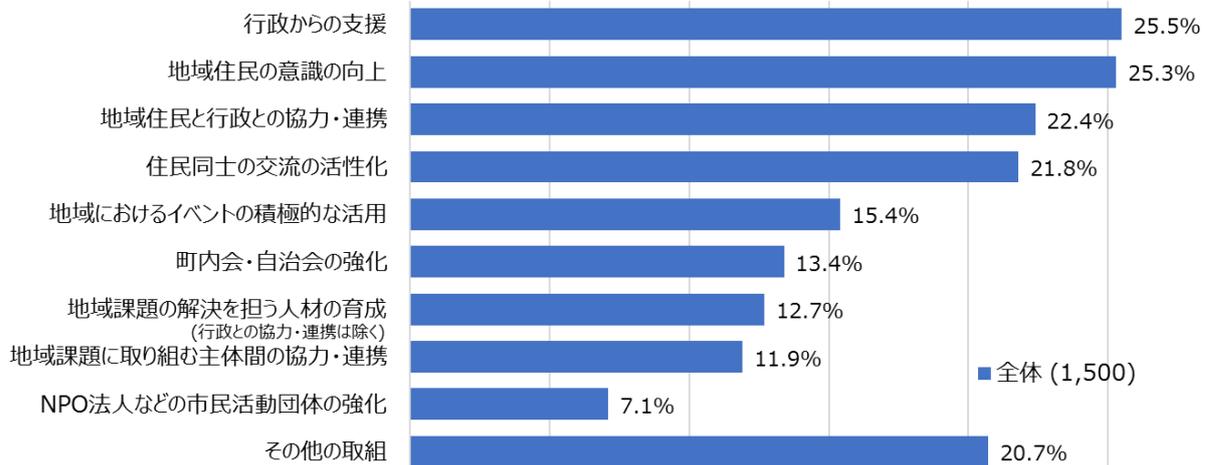


19 地域の課題解決に有効な取り組み

お住まいの地域において感じている課題解決に有効な取り組みとしては、回答割合が高いものから順に、「行政からの支援」(25.5%)、「地域住民の意識の向上」(25.3%)、「地域住民と行政との協力・連携」(22.4%)、「住民同士の交流の活性化」(21.8%)であった。

■ 地域の課題解決に有効な取り組み
(3つまでの複数回答)

図 19



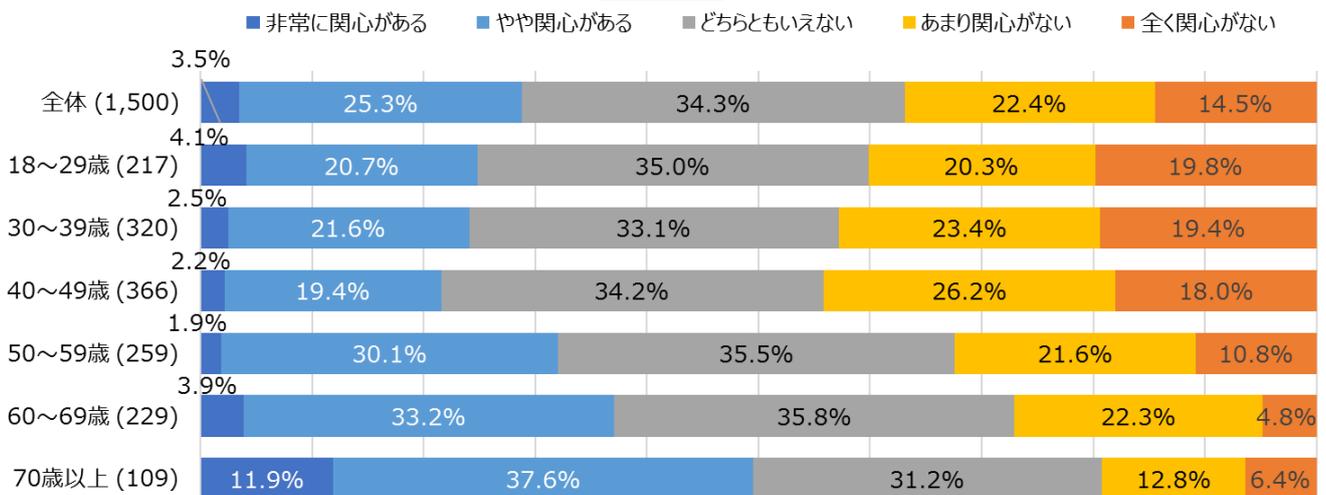
20 社会活動・地域活動への関心度

全体(n=1,500)では 28.8%の方が社会活動・地域活動に関心がある(「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計)と回答した。

年代別では、40代以下では関心度(「非常に関心がある」と「やや関心がある」の合計)が20%台であったが、50代以上では関心度が30%を超え、70歳以上(n=109)で最も高くなり49.5%であった。

■ 社会活動・地域活動への関心度

図 20



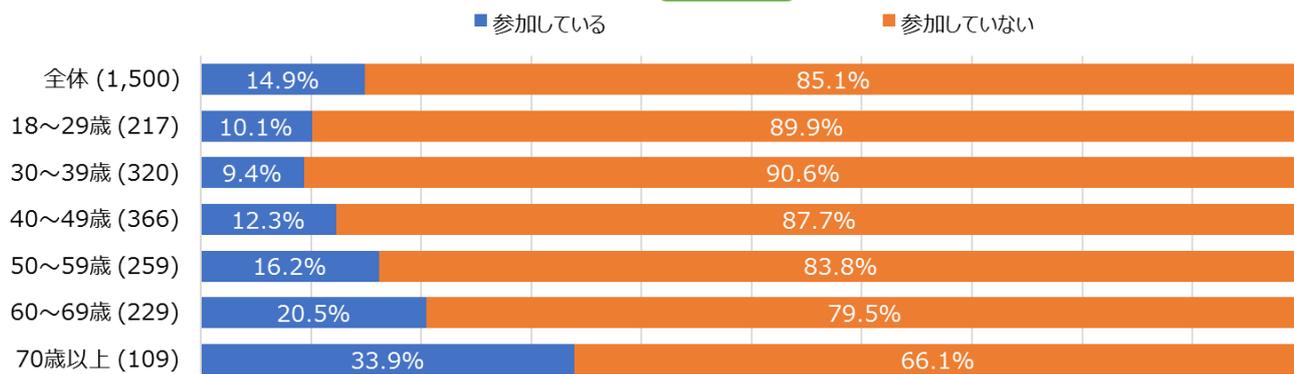
21 社会活動・地域活動への継続的な参加状況

全体(n=1,500)では 14.9%の方が継続的に社会活動・地域活動に「参加している」と回答した。

年代別では、40代以下では社会活動・地域活動への継続的な参加率は10%前後であったが、50代(n=259)で16.2%、60代(n=229)で20.5%と年代が上がるにつれ、参加率が高くなり、70歳以上(n=109)では33.9%であった。

■ 社会活動・地域活動への継続的な参加状況

図21

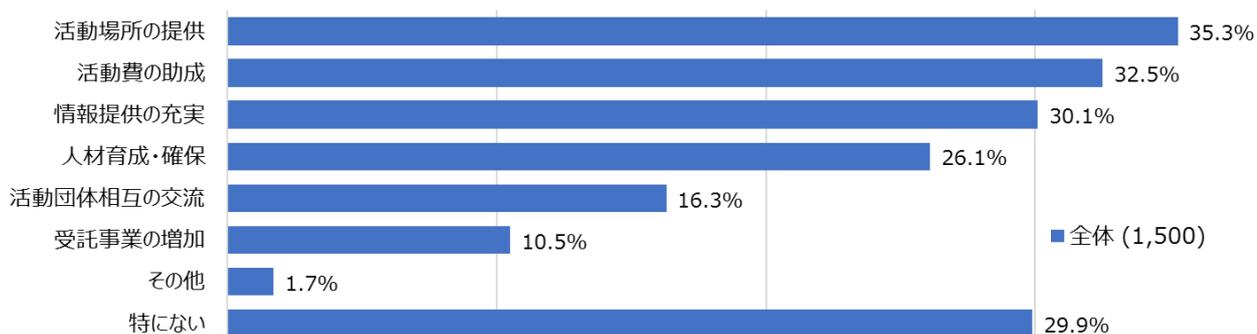


22 市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目

不特定の第三者の役に立つような公益性が高い社会活動・地域活動に対して、行政が支援すべきだと思う項目を聞いたところ、回答割合が高いものから順に、「活動場所の提供」(35.3%)、「活動費の助成」(32.5%)、「情報提供の充実」(30.1%)、「人材育成・確保」(26.1%)であった。

■ 市民活動・地域活動に対して行政が支援すべきだと思う項目(複数回答)

図22



平成29年度第1回かわさき市民アンケート概要版
平成29年11月

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2148 (直通)
FAX 044-200-3919